

インターンシップ報告書

大阪大学 生命機能研究科

D4/D5 横田 将志

大阪大学ベンチャーキャピタル株式会社（以下 OUVVC）でのインターンシップを体験した。

私はもともと起業と研究成果の事業化に興味があり、大阪大学 EDGE プログラムや学外のスタートアップイベントなどに積極的に参加していた。その中で、「EDGE CONNECT × DAIKIN ～企業におけるイノベーションへの取り組み～」というプログラムで OUVVC の方に出会ったことがきっかけとなり、インターンシップを申し入れた。OUVVC として初めてのインターンシップ受け入れでもあり、大阪大学共同研究・事業化推進グループの方々にもインターンシップの内容調整でご尽力いただき、2016 年 8 月 17 日より 10 月 31 日までの 2 ヶ月半（51 営業日）、ベンチャーキャピタル（以下 VC）の実務の深部に入り込むことができた。

日々の業務では実際の投資検討案件についてマンツーマン指導を受けながら、技術の革新性や特許性の調査、市場ニーズや市場規模の調査、関係企業に対する側面調査、事業計画などの財務的調査、タムシート作成、投資実行に至るまで多岐にわたる業務に携わった。また、会議や投資委員会という重要な場で役員に対する案件説明も行った。

私は、OUVVC でのインターンシップへ参加するにあたり、ベンチャーキャピタリストとしての視点、起業家を目指す者としての視点、大阪大学の学生としての視点、の 3 つの視点を持つことを心掛けた。その結果、この 3 つの視点においてそれぞれ学びがあった。

1. ベンチャーキャピタリストとしての視点

まずベンチャーキャピタリストとしては、ベンチャー企業（以下 VB）と共に事業成功への強い意気込みを持つことが大切であると感じた。この意気込みが丁寧な調査の原動力に直結し、調査で発見する様々な問題点は投資の判断材料になるだけでなく VB が解決すべき課題にもなることが分かった。そして成功に向けて VB と緊密にコミュニケーションし、良いことも悪いことも互いに言い合える関係を作ることが重要であると感じた。一方で、良い関係を築いていても調査の中では疑心暗鬼になるような葛藤もあり、また、問題発生時のリスクを最小限に抑える工夫についても知る事ができた。

VB には解決に時間を要している問題が多いことも分かった。人手不足という問題もあるが、VB がもっと直視すべき問題もある。問題をしっかり指摘し解決に導くことも厳しい役回りではあるが VC の任務であることを痛感した。

このように人と常に関わる業務であるためコミュニケーションのスキルが非常に大切であることを改めて確認した。

2. 起業家を目指す者としての視点

起業家としては、VC からの投資を受けるためには、事業の将来性だけでなく株主構成や関連会社との関係にまで気を付けておく必要があることを思い知らされた。例えば株主が多数の個人で構成されていた場合、フォロワーが多い VB と見るよりも、株主の誰かが事業にノーを突き付けそれに同調する株主が現れ、事業がストップするリスクのある VB と見られる場合があることには驚き、気を付ける必要があると感じた。また、最近はエンジェル投資家が徐々に増えてきているが、その投資家がどのような人であるか、気を付ける必要があることも非常に印象的であった。

また、VB の多くはチームアップで問題を抱え、適切な人材が見つからないということが起こっており、自分が VB を起業するときに備えて様々なところでネットワークを構築しておかなければ躓きそうであると感じた。

更に、VC はじめ様々な人に成功の可能性が高いと感じてもらうためには、自分の本気度をどこまで周りの協力者に伝えることができるかが大切であると感じた。VB だけでできることには限界があり、VB の周りに協力者が増えることが成功イメージの具体化に繋がるということが身をもって体験できた。

3. 大阪大学の学生としての視点

本インターンシップに阪大生として参加してまず感じたことは、学生が OUVV に貢献できることが多いということである。OUVC が阪大の研究成果を使う事業に投資をするということは、学内にその研究者がいて学生も関わっている可能性が高い。その学生の話は直接・間接に聞いたことがある場合も多く、投資検討案件の調査の足掛かりとして有効であると感じた。

また案件発掘については、OUVC より学生の方が、面白いテーマで研究している先生を知っていることが多い。先生の中には、企業との共同研究を通じて研究成果を世に出す先生ばかりでなく、声を掛ければ VB 設立も検討したいという先生もいる。学生が先生と OUVV や阪大共同研究・事業化推進グループを繋ぐパイプ役になり得ることが分かった。

以上の3つの視点から学びを得られ、OUVC でのインターンシップは非常に充実した良い経験であった。本インターンシップを、起業や研究成果の事業化に興味のある学生に是非お勧めしたいと思う。

このようなインターンシップを経験させていただいた OUVV の方々には非常に感謝しております。また、インターンシップの準備の段階からお世話になりました、阪大共同研究・事業化推進グループの方々にも本当に感謝しております。多くの人に支えていただきながらインターンシップを無事修了することができました。本当にありがとうございました。

今後もインターンシップを望む学生の紹介、事業化に関心のある先生の紹介などで OUVV に関わりたいと思います。今後とも宜しくお願い致します。



O U V V 松見社長より
修了証書をいただきました